

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぶんば（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 10日		～ 2025年 9月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	2025年 9月 10日		～ 2025年 9月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所には常勤・非常勤複数の看護師が在籍しており、医療的ケアが必要な児童への対応や健康面に配慮した支援が可能な体制を整えております。日々の健康管理に加え個々の健康状態に応じた支援の調整を行うなど、安全・安心な療育環境の提供に努めています。	日常的な健康観察を行い早期に体調の変化を察知・対応できるように配慮しています。 医療的ケア児の適切な処置や記録管理を徹底しています。	今後は看護師による「健康療育プログラム」やBLS（応急処置研修）や感染予防対策研修、てんかん発作時の対応や怪我の処置などの勉強会も継続的に行い職員全体の医療的リテラシー向上を図るとともに保護者・児童への支援をさらに充実させていきます。
2	当事業所では児童一人ひとりの発達段階や興味・関心・支援ニーズに応じた療育を行うことを目的に、毎月療育プログラムを作成し、計画的かつ多様な活動を実施しています。	毎月、子どもたちの発達段階や興味関心に応じた療育プログラムを作成しています。曜日ごとに通う児童が固定されていることを考慮し、同じ曜日でも内容が重複しないよう配慮しています。これにより、子どもたちが継続的に新しい刺激を受けながら、さまざまな経験を積むことができます。	・児童の自己選択、自己決定を促すプログラム構成。 ・活動のねらいや効果を明確化し、職員全体で目的を共有した上で支援にあたる体制づくりを目指します。 ・家庭との連携を図るため活動報告や写真の共有・保護者からのフィードバックの収集の継続を行います。
3	当事業所では、児童の特性や支援の必要性に応じて加配職員を多く配置していることが大きな強みです。これにより、1人ひとりに目が行き届きやすく、個々の発達段階に合ったきめ細やかな支援が可能となっています。 また、突発的な行動や気持ちの切り替えが難しい場面にも、速やかに対応できる安心・安全な環境を提供しています。	加配スタッフがいることで、その日の児童の状態に応じて活動形態を柔軟に変更することができます。たとえば、集団が難しい児童には個別対応に切り替えるなど、無理なく参加できる環境を提供し、「できた！」という達成感を引き出す支援につなげています。	加配職員の配置を最大限に活かし、スタッフの専門性（保育士、児童指導員、看護師、公認心理士など）を反映した療育プログラムの開発・実施を進めています。個々の職員が持つ知識や経験を共有し、チームとしてより高い支援力を発揮できる体制を整えていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	在籍児の年齢幅が広いこと、発達段階・興味・理解力の差が非常に大きく、プログラム設計・運営における均一性/個別対応の間でバランスを取ることが難しい。	・児童ごとに適切な課題を調整する手間が増える。 ・一部の児童が活動についていけなかったり、逆に物足りなさを感じたりする。 ・目標設定や成果の評価が曖昧になる。	・プログラムを「共通」「年齢別」「発達レベル別」に構成し、活動をモジュール化する。 ・スタッフの研修によって発達段階の理解を深め、柔軟な対応力を養う。 ・教材を年齢・レベル別に準備する。
2	医療的ケアや視覚支援が必要な児童・幼児、重症心身障がい児など、多様な支援ニーズを持つ子どもたちが在籍する中で、お出かけや遠出の希望に対応することが難しい。	・多様な支援ニーズへの対応の難しさ ・外出時の支援体制の不足	・外出活動の段階的実施 →少人数からの実施；初めは少人数での外出活動から始め、徐々に参加人数を増やしていきます。 ・活動内容の工夫 →外出活動の内容を、参加する児童・幼児のニーズや興味に合わせて工夫し、全員が楽しめるようにします。
3	地域の保育園や幼稚園との情報交換や連絡体制が希薄で整備されていない。	・情報共有の不足 ・人員・時間的制約 ・施設間の認識の違い (支援方針の相違：異なる施設間での支援方針や運営スタイルの違いが、連携の障壁となることがあります。)	・定期的な情報交換の場の設置 ・スタッフの意識改革と研修 ・共通の支援ツールの導入 ・地域資源の活用（地域の医療機関や福祉施設、ボランティア団体などと連携し、支援の幅を広げます。)

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	ぶんば（児童発達支援）		公表日		2025年 10月 10日		利用児童数	8名	回収数	5名
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応			
環境・体制整備	1 活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	5								
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	5								
	3 室内のスロープや手すりの設置などのバリアフリー化の配慮がされていると思いますか。（外階段は除く）。	5								
	4 こども達の生活空間は清潔で心地よく過ごせる環境になっていますか。	5								
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	4	1			不得意かなと思われる分野に対して少しだけ回数・時間を設けて頂けるとありがたいです。	ご意見ありがとうございます。 事業所の課題として取り上げさせていただきます。 (総括をご参照下さい)			
	6 事業所がHPに公表している支援プログラムは、支援内容と合っていると思いますか。	5								
	7 こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画書が作成されていると思いますか。	5				個別での支援活動ではどのような事が行われているか知りたいです。	ご意見ありがとうございます。 日々の記録だけでなく個別の対応についてもお伝えするように周知していきます。			
	8 作成された計画にこどもに必要な支援（本人への支援・家族への支援・将来に向けた支援）がきちんと含まれていて、内容も具体的で分かりやすく記載されていると思いますか。	5								
	9 個別支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5								
	10 毎月の活動プログラムは工夫されていると思いますか。	5				療育プログラムも充実していて積極的に色々なことに取り組める機会を作っていただき大変満足しております。	ご意見ありがとうございます。これからも子ども達が楽しめるプログラムづくりに励みます。			
	11 地域の公園や児童館などへ行き地域との交流ができる機会がありますか。	3		1	1	実施されていないと思う 分からない	ご意見ありがとうございます。 お子様の状態や利用時間によっては平日に地域との交流の場に出向くのは難しく、休日にお出かけすることが多いため休日の利用がない方には実施できておりません。平日にも実施できないか前向きに検討させていただきます。			
保護者への説明等	12 事業所と契約する際に、運営規程、プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5								
	13 日々の療育支援について支援内容の説明がありましたか。	5								
	14 こどもの現状や今後の支援についてお話しさせていただき、定期モニタリングについてご満足いただけていますか。	5								
	15 モニタリングでは、子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5								
	16 事業所の職員から、日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	5								
	17 事業所の職員から、こどもの健康や発達の状況について共感的に支援をされていると思いますか。	5								
	18 現在父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなどの支援は行っておりませんが、今後保護者会や、きょうだい同士の交流の機会を設けるなどの支援を希望されますか。	3	1	1		同じ境遇のお子さんのお母さんとお話をする機会があればうれしいと思います。 保護者や兄弟と一緒に参加できるイベント（夏祭り・ハロウィン・Xmas会等）を通じて他の保護者とも交流できる機会があればいいなと思いました。	ご意見ありがとうございます。 家族が参加できるイベントの企画も前向きに検討させていただきます。			
	19 こどもや保護者様からのご意見、お問い合わせについて適切に対応できていますか。	5								
	20 帰宅時や活動記録でこどものその日の活動内容や様子をお伝えできていますか。	5								
	21 定期的にSNS等で活動概要の報告や療育プログラムがこどもや保護者に対して発信されていますか。	5								
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5									
23 非常災害時（地震や、台風、感染症）などの対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。	5									

非常時等の対応	24	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が実施されていると思いますか？	5					
	25	事業所内の備品や設備に目立った不備はなく、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	5					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	5				息子はふんばさんへ行くことを毎回楽しみにしています。お迎えがくるとニコニコ玄関まで走っていきます。	ご意見ありがとうございます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	5				スタッフの皆さんにいつも可愛がってもらっていますし、同じ年くらいのお友達と交流できる貴重な時間を過ごさせて頂き本当にありがとうございます。	ご意見ありがとうございます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ぶんば（児童発達支援）		公表日		2025年 10月 10日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		こどもが使用するもの以外は基本的に置かず、できるだけ活動スペースを広くとれるように工夫している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		送迎時刻が重なる時間は少ないと感じることもあるが、日々の職員数は多い方だと思う。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		各おもちゃ箱に中の写真を貼って可視化している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		毎日次亜塩素酸や消毒液での室内清掃を行っている。活動に合わせて机やテーブルを移動させ活動に合わせたスペースを確保している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	2	カーテンでの仕切りを活用している。	カーテンで仕切るスペースしかなく、学習する子と遊んでいる子が同じスペースにいるので集中しにくいと感じる。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	1	日々のプログラムで何か気づいたことや、問題があれば振り返りを行っている。	気づいたことや問題があった時に振り返りをしており、時間があれば毎日振り返りを行えてもいいかもしれない	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		アンケート結果を閲覧できるようになっている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		職員の意見交換をする時間は多い		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		10		外部評価は行っていないため、今後検討していく	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		研修のお知らせはよく掲示されている		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10		モニタリングでの保護者のニーズをまとめたものを閲覧できるようになっており、個別支援計画の目標の意図が分かりやすい。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	2		意見を言えない子は保護者のニーズにより計画が立案されているため、児が本当に望んでいるのか不明なこともある。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		個別支援計画を元にチュートリアルレッスンの内容や日々の関り方を工夫している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		月別で担当者を変え、プログラムの内容が偏らないように工夫している。毎月療育プログラムのカレンダーを作成し配布している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		曜日別で同じプログラムが重ならないように工夫している。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10		子どもの状況に合わせて外遊びやクッキング、買い物体験などプログラム化している。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10				
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	9	1		支援終了後に振り返る時間はないため翌日午前中に振り返る時間を設けている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		毎日活動記録を記載もしているが、送迎時日中の様子を伝えるようにしている。		

	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		5月と11月に必ず全員のモニタリングを行い計画の立案し支援会議をしている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		開催されれば可能な限り参加するようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	4		保育園の先生も忙しく簡単な情報共有しか行っていない。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	2	相談員さんがいる場合は就学前の支援会議に参加し意見を伝えることはしている。	デイと学校が直接連絡をとりあい、就学前の情報共有等は行っていない。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		10	自立支援協議会や、放課後連絡会での勉強会や交流会があれば参加するようにしている。	そのような機会は設けていない。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8	2	休日や長期休暇には地域の公園やイベント、児童館へ行き地域の中で遊べるように時間を設けている。	地域に保育所や幼稚園等との交流はない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		日々の活動記録はもちろんであるが、送迎時にデイでの様子をできる限り伝えるようにしている。また年に1回は子ども達のアルバムを作成し配布している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		10		事業所として研修や交流会は行っていないが、外部でのイベントのチラシなどの配布は行っている。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		悩み相談等あればモニタリング期間以外でも面談を行い保護者の悩みを聞くようにしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		10		事業所として研修や交流会は行っていないが、外部でのイベントのチラシなどの配布は行っている。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		スタッフにはできる限り周知できるようミーティングを行っている。難しい場合はLINEなどを活用し情報共有ができるようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	1	インスタグラムで日々の様子をアップしている	毎日上げれることを目標にしているが、なかなか難しい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		可視化できるようにしている。 視覚支援が必要な場合は点字も対応している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	2		地域住民を招待することはないが、地域に行事に参加していることはある。
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10				

非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		看護師がたくさんいるので安心できます。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	2		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10			現在身体拘束が必要な児童はいないが、必要な児が利用する場合に備えておきたい。